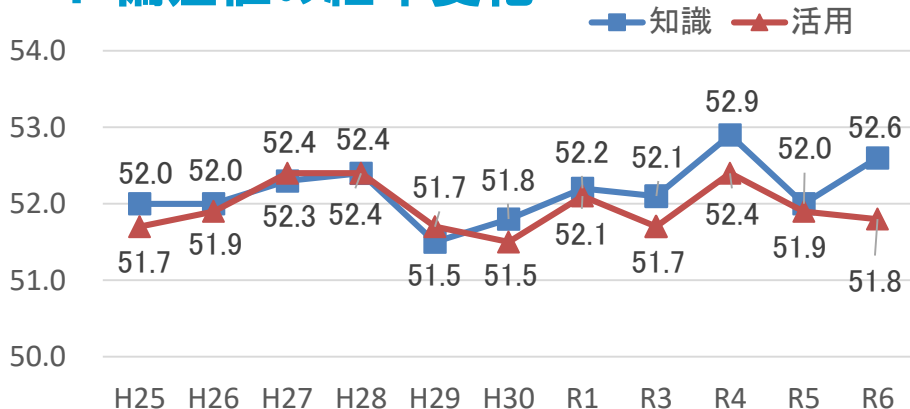


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
数と計算	74.7	69.6	67.9
図形	71.1	65.6	63.1
変化と関係	61.5	58.4	59.2
データの活用	59.0	53.1	53.8

○全ての領域において、全国正答率を上回っている。

2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	75.5	70.4	69.2
思考・判断・表現	50.4	46.0	45.6
主体的に学習に取り組む態度	53.6	48.6	51.0

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	74.7	69.9	67.2
短答	69.9	64.6	63.6
記述	20.9	18.0	30.0

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

■ つまづきが見られた問題

大問13(3) 県正答率21.1% 県無解答率17.3%

【ねらい】 伴って変わる2つの数量の関係を式に表して、その式を使って一方の値からもう一方の値を求める方法を説明している。

【問題の概要】

はり金の長さとうりすなの関係を探した表をもとに、決められたうりすなのはり金の長さを求める。(記述)

【正答例】

表から1mあたりのはり金のうりすなを求め、はり金の長さとうりすなの関係を式に表す。その式をもとに、決められたうりすなのはり金の長さを求める。

◆ 指導のポイント

○ 伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察することができるようにする。

★ 指導の具体例

★ 伴って変わる2つの数量について、それらの関係に着目して、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにすることが重要である。

★ その際、答えや計算の仕方だけを説明するのではなく、求め方について、表を用いるなどし、変化の規則性を基に説明することができるようにすることが大切である。

大問14(2) 県正答率20.7% 県無回答率30.5%

【ねらい】 1目盛り大きさが異なる2つのグラフをもとに、間違いを指摘している。

【問題の概要】

2つの地域の気温の変わり方を、それぞれの地域の気温の変わり方を表したグラフをもとに比較する。(記述)

【正答例】

2つの地域の気温の変わり方を表したグラフの1目盛り大ききの違いをもとに、それぞれの地域の気温の変わり方を比較する。

◆ 指導のポイント

○ 折れ線グラフを用いて、伴って変わる2つの数量の変化の特徴を読み取ることができるようにする。

★ 指導の具体例

★ 同じグラフであっても、折れ線グラフの縦軸の幅を変えることなどによって、見え方が異なることに気付かせることが重要である。

★ 統計的な主張については、主張の内容をそのまま受け止めるのではなく、「このグラフから導く結論は、これで正しいのか。」という視点で振り返って考えることが大切である。